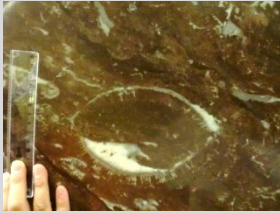
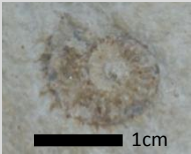


特集!! 梅田の化石



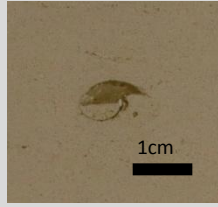
① 長径 15 cm ほどの2枚貝の化石
 @ 阪急8番街



② ちびアンモナイト 植物の化石のよう
 @ホワイティ梅田 に見えますが実は...



③ 直径約11cmのアンモナイト
 @HEP NAVIO



④ ジオペタル構造。これで地層の水平がわかります。
 @ホワイティ梅田

メンバー紹介

辻村 滉佑 (つじむら こうすけ)
 大阪市立大学理学部地球学科一回生



好きな恐竜: ティラノサウルス・レックス
 趣味: 読書、恐竜について考える事、ネットサーフィン
 好きな武将: 華雄 好きな文官: 陳宮 好きな君主: 劉備玄德
 座右の銘: 初志貫徹 好きな言葉: 温故知新 etc...

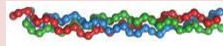
古生物紹介

テリジノサウルス
Therizinosaurus cheloniformis
 恐竜上目 竜盤目 獣脚亜目
 コエルロサウルス下目 テリジノサウルス科
 白亜紀後期 モンゴル 全長8~11m



コラム - 恐竜のタンパク質 -

James D. San Antonio, Mary H. Schweitzer et al., 2011
 Dinosaur Peptides Suggest Mechanisms of Protein Survival



2011年のこの論文では、なぜ恐竜のタンパク質が何千万年もの間保存されるのか、そのメカニズムについて考察している。この論文で分析したタンパク質は、ロッキー博物館に保管されている*T.rex*の標本とブラキロフォサウルスから以前に抽出された、あわせて11のコラーゲンペプチドである。残されたペプチドはランダムな位置にあるわけではなく、規則性があるようだ。そこから作者は、このタンパク質が絶滅した恐竜のもので、としており、コラーゲン繊維の機能的に重要な部分が化石として保存されやすいと考察している。この論文に対してNature Newsが、絡み合ってローブ状になったコラーゲンの構造が、保存された理由だと紹介している。化石に残っているタンパク質の研究が進めば、恐竜の分子レベルでの構造と機能が明らかとなるかもしれない。

今後の予定、イベント情報 (7,8月)

活動予定

- 7/20 活動日、JP通信第3号発行
- 7/24 大東市ワークショップ
- 8/月上旬 活動日
- 8/13 きしわだ恐竜教室

イベント情報

- ▶ 恐竜化石展
開催中-8月21日@石川・白山
- ▶ 大化石展
開催中-8月28日@大阪・長居
- ▶ DINO PARTS LABO
開催中-9月4日@栃木・さくら
- ▶ ようこそ 恐竜ラボへ!
開催中-9月11日@栃木・宇都宮
- ▶ 恐竜博2011
開催中-10月2日@東京
- ▶ 新説・恐竜の成長
開催中-10月10日@福井・勝山
- ▶ 黄河大恐竜展
開催中-10月31日@愛知・名古屋
- ▶ 謎の巨大恐竜スピノサウルス
開催中-11月20日@群馬・富岡
- ▶ 恐竜展2011
開催中-11月27日@群馬・神流
- ▶ FOSSIL ISLANDS
開催中-12月27日@岐阜・瑞浪